西粟倉村 百年の森林構想 人口ビジョン

平成 27 年 8 月

目 次

第1章	はじめに	1
1.	目的	1
2.	対象期間	1
3.	国の長期ビジョン	1
第2章	西栗倉村を取り巻く現状	3
1.	人口	3
	1)人口の推移と将来推計	
(:	2)年齢3区分別人口の推移	5
(:	3)人口ピラミッドの推移	7
(.	4)世帯の家族類型別一般世帯数の推移	8
(.	5)人口増減数の推移	6
()	6)合計特殊出生率の推移	10
('	7)年齢階級別人口移動の推移	13
(:	8)転入者・転出者の住所地	14
(!	9) 流入・流出人口(15 歳以上の通勤・通学者の動向)	15
2.	産業	
(1)事業所数と従業者数	17
(:	2)産業別就業人口	17
(:	3)地域経済分析	20
3.	財政	21
4.	事業所・村民ヒアリング調査結果	22
(1) 対象	22
(:	2)調査項目	22
(:	3)調査結果	22
第3章	西粟倉村の人口の将来推計と分析	27
1.	西粟倉村の現状と課題	27
(1) 人口動向	27
(:	2) しごと	27
(:	3) 住まい	27
(.	4) 子育て	28
2.	目標人口	29
(1)基本的な考え方	29
(:	2)目標人口	30
(5	会考)	21

第1章 はじめに

1. 目的

国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」の主旨を踏まえ、西粟倉村における人口の現状分析を行い、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を示すものです。

2. 対象期間

西栗倉村人口ビジョンの対象期間は、45年後の平成72年(2060年)とし、国立社会保障・人口問題研究所(社人研)の人口推計を基礎数値として用います。

3. 国の長期ビジョン

国の長期ビジョンでは、日本の人口の現状と将来の姿を示し、人口問題に関する国民の認識の共有を目指すとともに、今後、取り組むべき将来の方向を提示するものです。

国の長期ビジョンの概要

■人口問題に対する基本認識

- ・2008年に始まった人口減少は、今後加速度的に進む。
- ・人口減少の状況は、地域によって大きく異なる。
- ・人口減少は地方から始まり、都市部へ広がっていく。
- ・人口減少は、経済社会に対して大きな重荷となる。
- ・地方では、地域経済社会の維持が重大な局面を迎える。
- ・東京圏には過度に人口が集中している。
- ・今後も東京圏への人口流入が続く可能性が高い。
- ・東京圏への人口の集中が、日本全体の人口減少に結び付いている。

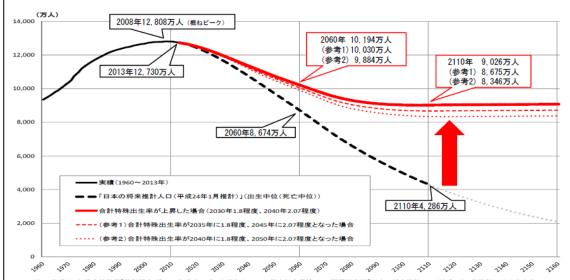
■今後の基本的視点

- 人口減少に対する国民の危機感は高まっている。
- ・的確な政策を展開し、官民挙げて取り組めば、未来は開ける。
- ・人口減少への対応は、「待ったなし」の課題である。
- ・3 つの基本的視点から取り組む(東京一極集中の是正、若い世代の就労・結婚・子育 ての希望の実現、地域の特性に即した地域課題の解決)
- ・国民の希望の実現に全力を注ぐ。
- ・若い世代の結婚・子育ての希望に応える。

■目指すべき将来の方向

- ・今後目指すべき将来の方向は、将来にわたって「活力ある日本社会」を維持することである(人口減少に歯止めをかける。若い世代の希望が実現すると、出生率は 1.9 程度に向上する。人口減少に歯止めがかかると、2060 年に 1 億人程度の人口が確保される。さらに人口構造が「若返る時期」を迎える。「人口の安定化」とともに「生産性の向上」が図られると、2050 年代に実質 GDP 成長率は、1.5~2%程度が維持される。)
- ・自らの地域資源を利用した、多様な地域社会の形成を目指す。
- ・外部との積極的なつながりにより、新たな視点から活性化を図る。
- ・地方創生が実現すれば、地方が先行して若返る。
- ・東京圏は、世界に開かれた「国際都市」への発展を目指す。
- ・地方創生は、日本の創生であり、地方と東京圏がそれぞれの強みを活かし、日本全体 を引っ張っていく。

我が国の人口の推移と長期的な見通し



(注1)実績は、総務省統計局「国勢調査」等による(各年10月1日現在の人口)。国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」は出生中位 (死亡中位)の仮定による。2110~2160年の点緯は2110年までの仮定等をもとに、まち・ひとしごと創生本部事務局において機械的に延長したものである。 (注2)「合計特殊出生率が上昇した場合」は、経済財政諮問会議専門調査会「選択する未来」委員会における人口の将来推計を参考にしながら、合計特殊出生率が2030年に1.8程度、2040年に2.07程度(2020年には1.6程度)となった場合について、まち・ひと・しごと創生本部事務局において推計を行ったものである。

第2章 西粟倉村を取り巻く現状

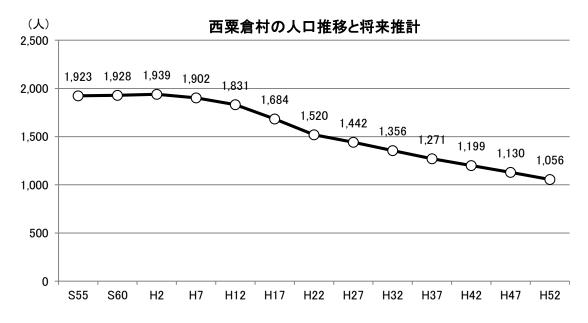
1. 人口

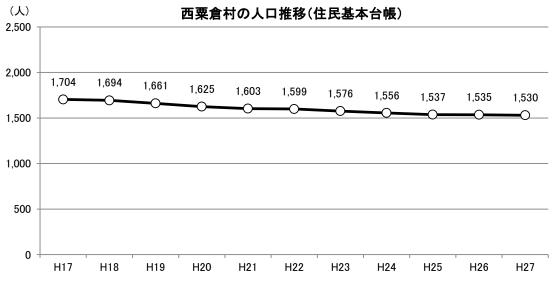
(1) 人口の推移と将来推計

西栗倉村の人口は、平成 22 年 10 月に行われた国勢調査では 1,520 人でした。 西栗倉村の人口は、(昭和 55 年以降では) 平成 2 年の 1,939 人をピークに減少に転じています。

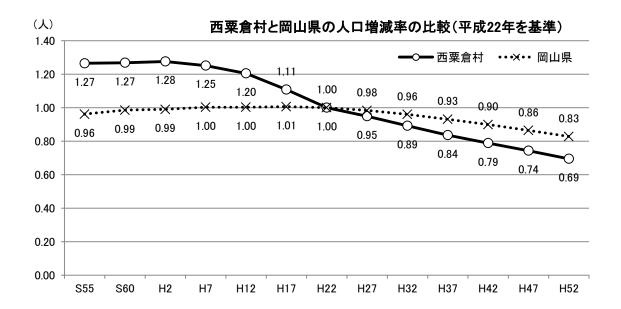
さらに、国立社会保障・人口問題研究所(社人研)が公表した推計(平成25年3月)によると、平成52年には1,056人まで減少、平成22年からの人口減少率は30.5%と、この30年間で500人弱の減少になると予測されています。

なお、住民基本台帳によると、平成27年6月1日現在の人口は1,518人で、(社人研)の推計値(平成27年)1,442人より人口が多くなっています。また、住民基本台帳の人口推移を見ると、国勢調査・社人研推計値より緩やかに人口減少しています。





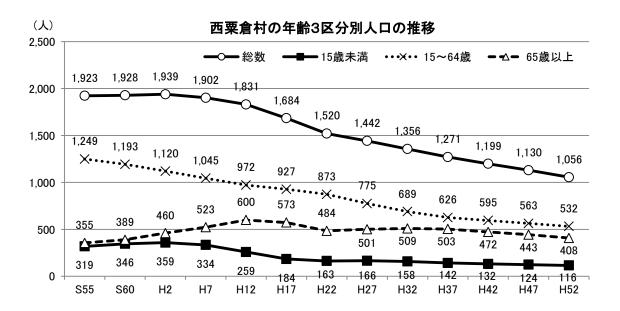
平成 22 年を基準 (1.00) として、人口の増減率を西粟倉村と岡山県で比べてみると、西 粟倉村は岡山県と比べて急激な速度で人口減少が進んでいます。

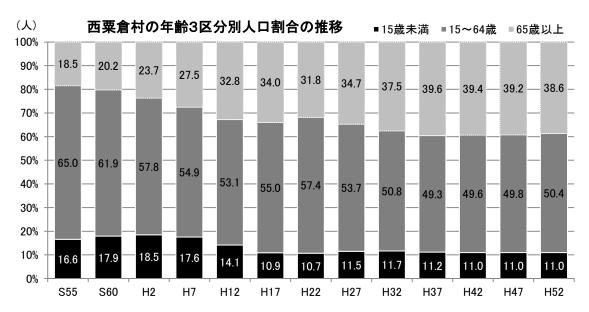


(2)年齢3区分別人口の推移

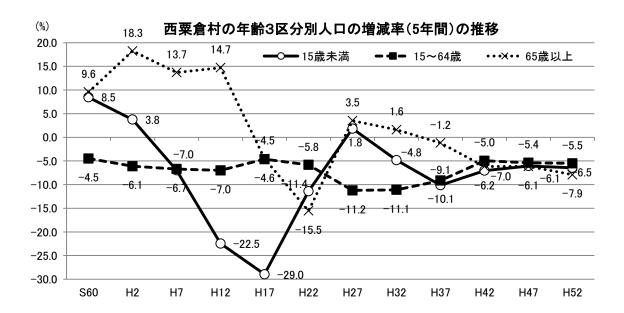
西粟倉村の年齢 3 区分別人口を見てみると、生産年齢人口(15~64歳)は昭和 55 年以降、減少傾向にあります。また、昭和 55 年には既に老年人口(65歳以上)と年少人口(0~14歳)が逆転しています。その後、老年人口は増加を続け、平成 12 年にピーク(600人)を迎えましたが、その後は緩やかに減少しています。

平成37年には村全体の約40%が65歳以上となり、生産年齢人口約1.24人で1人の老年人口を支えることになります。ただし、平成37年以降は全人口に占める老年人口割合は微減し、生産年齢人口が微増する傾向にあります。



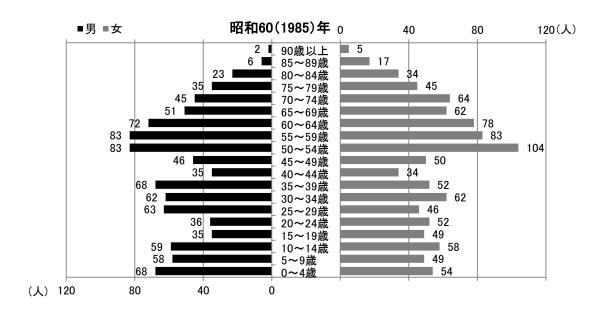


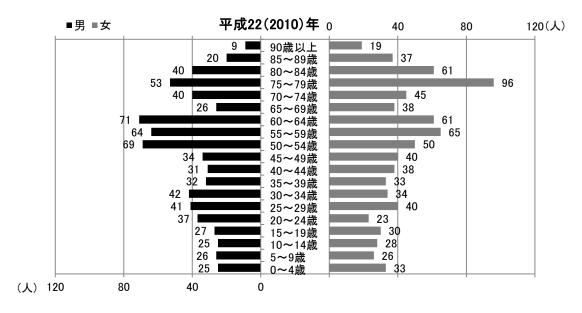
年齢3区分別の人口について、5年ごとの増減率を見てみると、生産年齢人口は昭和60年以降、常に減少している一方、年少人口及び老年人口は増加と減少を繰り返しており、年少人口は平成17年に5年前より約29%減、老年人口は平成22年に5年前より約16%減と大きく減少しています。また、平成42年以降はどの年齢区分も緩やかな減少となる中、平成52年には老年人口の減少率が約8%と最も大きくなっています。

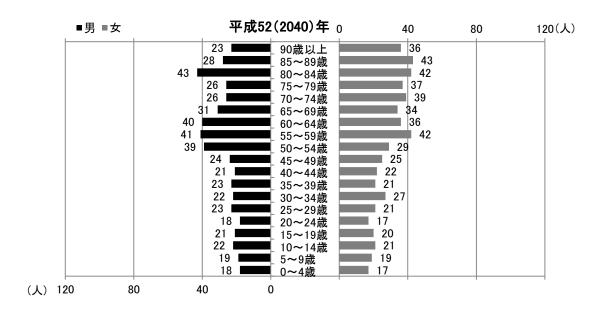


(3) 人口ピラミッドの推移

人口ピラミッドの推移を見てみると、昭和 60 年には $①0\sim14$ 歳、 $②25\sim39$ 歳、 $③50\sim64$ 歳が他の年齢階級と比べて多くなっていますが、25 年後の平成 22 年には $①20\sim34$ 歳、 $②50\sim64$ 歳、 $③75\sim84$ 歳にピークが移動しています。平成 52 年には年少人口の減少と老年人口の増加により、その形状は「つぼ型」に変化しています。昭和 60 年から平成 52 年までの間に、 $20\sim30$ 代の若年人口は、男女合わせて 269 人減少しています(昭和 60 年:441 人、平成 52 年:172 人)。

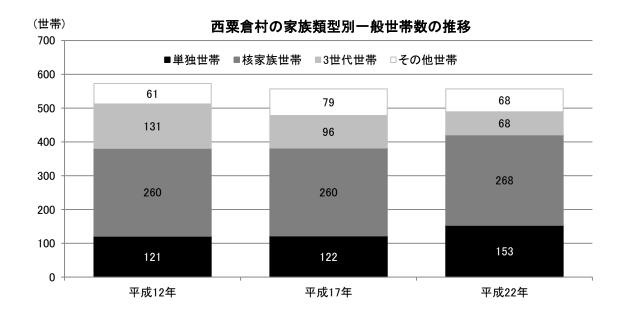






(4) 世帯の家族類型別一般世帯数の推移

世帯数では、単独世帯及び核家族世帯が増加する一方で、親・子・孫が同居する、いわゆる「3世代同居世帯」が減少しています。この背景としては、高齢者の増加や老親と同居をしない子の増加などが考えられます。



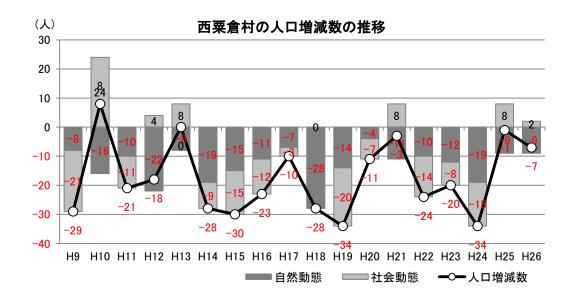
(5) 人口増減数の推移

西栗倉村の自然動態(出生・死亡数)、社会動態(転入・転出数)の動きを見てみると(住民基本台帳)、自然動態は平成9年以降、4人~28人の間で常に自然減少が生じており、死亡数が出生数を上回っています。

社会動態は1年間に20人以上減少している年などが見られる一方で、20人以上が増加している年も見られます。

現在、西粟倉村には11人の外国人が居住しています。

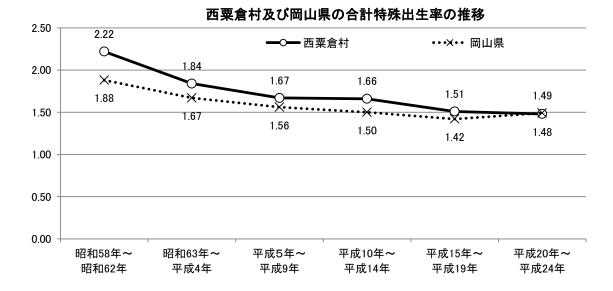
以上より、人口増減数は平成 10 年を除いて常にマイナスであるものの、平成 24 年にピークとなる 34 人が減少して以降、人口減少数は少なくなりつつあります。



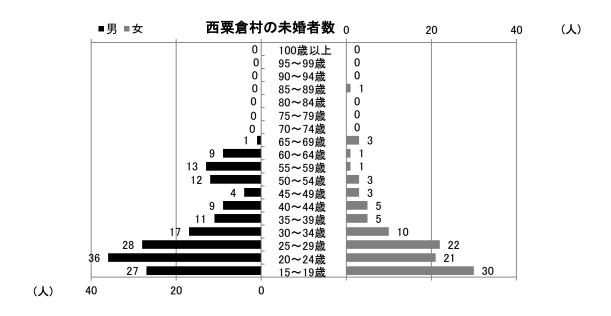
(6) 合計特殊出生率の推移

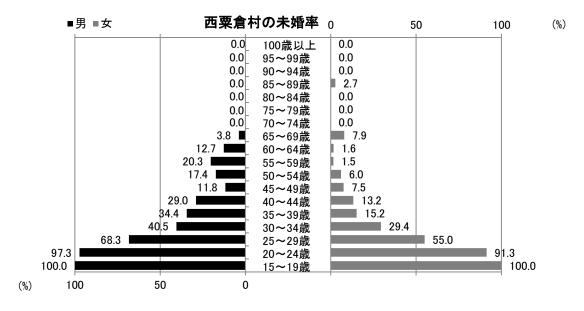
1 人の女性が一生に産む子どもの人数とされる「合計特殊出生率」の推移を見てみると、平成 $20\sim24$ 年には 1.48 となっています。昭和 58 年以降、西粟倉村の合計特殊出生率は岡山県を上回っていましたが、徐々に差が小さくなり、平成 $20\sim24$ 年に岡山県の合計特殊出生率 1.49 を下回っています。

合計特殊出生率は出生数の減少に大きく影響します。合計特殊出生率の低下は合計特殊 出生率を算出する歳の母数とする「15~49歳までの女性」の人口減少が大きいことに起因 していることから、若い世代の人口増加が重要となります。



西粟倉村の未婚者数及び未婚率(15 歳以上人口に占める未婚者の割合)を見てみると、 $15\sim19$ 歳をピークとした富士山型となっています。特に女性では、 $20\sim24$ 歳の未婚率が 91.3%、 $25\sim29$ 歳が 55.0%、 $30\sim34$ 歳が 29.4%となっており、34 歳までに女性の約 1/3 が結婚をしていない状態です。また、男性の未婚率も $35\sim39$ 歳が 34.4%、 $40\sim44$ 歳が 29.0% となっている他、 $55\sim59$ 歳が 20.3%と高い割合を示しています。





県内各市町村の25歳~29歳女性の婚姻率と合計特殊出生率を比べてみると、西粟倉村の 合計特殊出生率はほぼ真ん中、婚姻率はやや高めに位置しています。

しかし、近隣の津山市や勝央町、美作市などは婚姻率、合計特殊出生率ともに西粟倉村 を上回っています。また、奈義町や倉敷市、吉備中央町などは西粟倉村より婚姻率は小さ いものの、合計特殊出生率は西粟倉村を上回っています。

50% ◆新見市 新庄村 真庭市 45% ●里庄町 ◆ 美咲町 婚 ◆ 早島町 ◆ 総社市 姻 40% ◆ 赤磐市 ◆高梁市 率 ◆井原市 岡山市 35% 備前市 🔷 ◆吉備中央町 和気町 30%

県内各市町村の25歳~29歳女性の婚姻率と合計特殊出生率

※婚姻率は総務省「国勢調査(平成22年)」、合計特殊出生率は厚生労働省「人口動態統計特殊報告(平成20年~平成24年人口動態保健所·市町村別 統計の概況)」におけるベイズ推定値を基に作成。

1.55

合計特殊出生率

1.75

1.5

◆ 久米南町

1.45

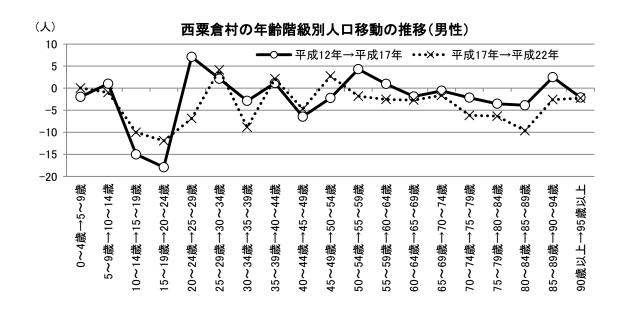
1.4

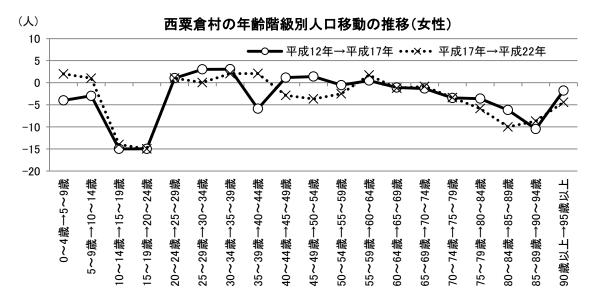
1.35

25% 1.3

(7) 年齢階級別人口移動の推移

平成12年以降の純移動数(国勢調査の人口と各期間の生残率を用いて推定した値)を算出し、年齢別・男女別の動向を見てみると、10代~20代前半の転出超過が大きくなっています。また、70代~80代も転出超過の傾向が見られます。





(8) 転入者・転出者の住所地

①転入者の転入元の住所地

平成22年の国勢調査結果から転入・転出の状況を詳しく見てみると、西粟倉村への転入者数は169人となっており、岡山県内からの転入者が68人で最も多く、続いて近畿地方が49人となっています。市町村別では、隣接する美作市からの転入者が20人で最も多くなっており、また国外から12人、大阪市から10人転入しています。

◆転入者数(地域別)

	総数	男	女
北海道•東北	1	1	0
関東	15	8	7
中部	14	9	5
近畿	49	29	20
岡山県	68	31	37
中国・四国・九州(岡山県を除く。)	10	6	4
国外	12	4	8
合計	169	88	81

◆転入者数(上位5市町村)

	総数	男	女
美作市 岡山市 国外 津山市 大阪市	20	7	13
岡山市	14	7	7
国外	12	4	8
津山市	10	4	6
大阪市	10	4	6

②転出者の転出先の住所地

西栗倉村からの転出者数は 159 人となっており、岡山県内への転出者が 101 人で最も多く、続いて近畿地方が 29 人となっています。市町村別では、津山市への転出者が 33 人、美作市への転出者が 32 人、岡山市への転出者が 20 人となっています。また、姫路市へ 7人、神戸市へ 6 人が転出しており、県内の他に兵庫県へ転出する傾向があります。

◆転出者数(地域別)

	総数	男	女
北海道•東北	1	0	1
関東	8	7	1
中部	3	2	1
近畿	29	12	17
岡山県	101	37	64
中国・四国・九州(岡山県を除く。)	17	11	6
国外	0	0	0
合計	159	69	90

◆転出者数(上位5市町村)

	総数	男	女
津山市	33	10	23
津山市 美作市 岡山市	32	13	19
岡山市	20	7	13
姫路市	7	2	5
神戸市	6	3	3

③転入・転出のまとめ

西粟倉村の転入・転出の実態を取りまとめると、県内や中国地方(鳥取市や広島市など)、また兵庫県へといった近隣地域へ転出超過となっています。一方、関東地方や中部、近畿地方といった遠方地域から転入超過となっており、国外からも12人が転入していることは特徴的です。

◆転入者数・転出者数(地域別)

	転入者数	転出者数	差引
北海道•東北	1	1	0
関東	15	8	7
中部	14	3	11
近畿	49	29	20
岡山県	68	101	-33
中国・四国・九州(岡山県を除く。)	10	17	-7
国外	12	0	12
合計	169	159	10

(9) 流入・流出人口(15歳以上の通勤・通学者の動向)

①西粟倉村で従業する者

流入・流出人口(通勤・通学者の動向)を見てみると、平成22年の国勢調査において、 西粟倉村の流入人口(他の区域から西粟倉村への通勤者)は111人です(通学者は0人)。 このうち、美作市の居住者が64人で最も多く、続いて智頭町が19人となっています。

◆西粟倉村で従業する者(15歳以上)

	就業者
美作市	64
智頭町	19
佐用町	7
津山市	6
岡山市	3
鳥取市	3
鳥取市 その他	9
合計	111

②西粟倉村に常住する就業者・通学者

平成22年の国勢調査において、西栗倉村の流出人口(西栗倉村から他の区域へ通勤・通学する者)は308人です。このうち、通勤者数は264人であり、美作市へ通勤する者が167人で最も多く、続いて佐用町が32人となっています。

通学者数は44人であり、美作市へ通学する者が15人で最も多く、続いて津山市が8人となっており、岡山県内及び鳥取県へ通学しています。

◆西粟倉村に常住する就業者(15歳以上)

	就業者
美作市	167
佐用町	32
津山市	14
勝央町	12
智頭町	7
その他	32
合計	264

◆西粟倉村に常住する通学者(15歳以上)

	通学者
美作市	15
<u>美作市</u> 津山市	8
岡山市	6
勝央町	6
鳥取市	4
その他	5
合計	44

③流入・流出のまとめ

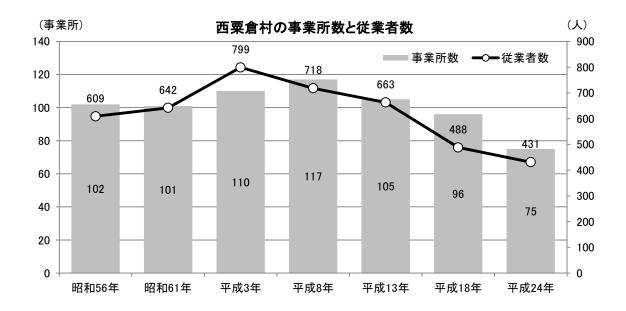
西栗倉村の流入・流出人口を取りまとめると、智頭町などを除いて、基本的には流出超過となっており、特に美作市へは118人が通勤・通学で流出しています。

2. 産業

(1) 事業所数と従業者数

西粟倉村の事業所数を見てみると、昭和 56 年には 102 事業所でしたが、平成 8 年には 117 事業所とピークを迎え、その後は減少傾向となっています。

従業者数は、昭和 56 年には 609 人でしたが、平成 3 年には 799 人とピークを迎え、その後は減少傾向となっています。

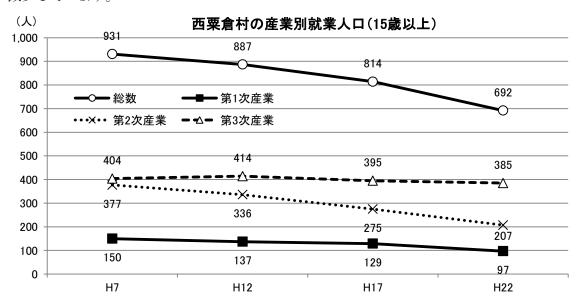


(2) 産業別就業人口

①産業別就業人口

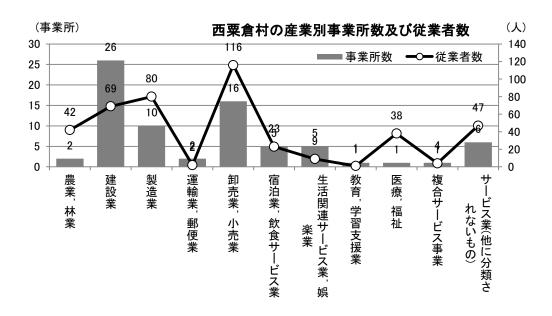
西栗倉村の産業別就業人口を見てみると、第 1 次産業及び第 2 次産業の減少が続いており、平成 7 年に第 1 次産業は 150 人、第 2 次産業は 377 人でしたが、平成 22 年には第 1 次産業は 97 人、第 2 次産業は 207 人となっています。

第3次産業については、平成12年をピークに減少しており、村全体の就業人口も急速に減少しています。



②産業大分類別の事業所数及び従業者数

西栗倉村の産業構造を産業大分類別に見てみると、事業所数では建設業が26事業所で最も多く、続いて卸売業、小売業が16事業所となっています。従業者数では卸売業、小売業が116人で最も多く、続いて製造業が80人、建設業が69人となっています。したがって、「卸売業、小売業」、「建設業」、「製造業」が西栗倉村の雇用創出型産業と言えます。

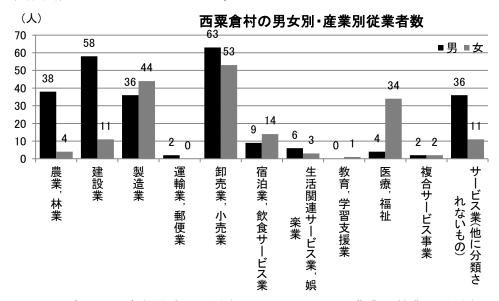


③男女別産業人口

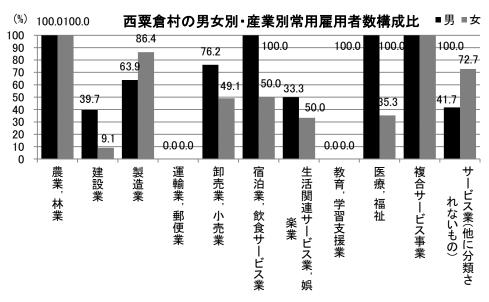
男女別産業人口の状況を見てみると、男性は卸売業,小売業が63人で最も多く(主に飲食料品小売業ですが、2事業所で機械器具卸売業、1事業所で機械器具小売業)、続いて建設業が58人、農業,林業が38人(詳しく見ると全て林業)、サービス業(他に分類されないもの)が36人(詳しく見ると、「政治・経済・文化団体」と「宗教」)、製造業が36人となっています(木材・木製品、家具・装備品、ゴム製品)。

一方、女性は卸売業,小売業が53人で最も多く、続いて製造業が44人、医療,福祉が34人となっています(社会保険・社会福祉・介護事業)。

農業、林業、建設業、サービス業(他に分類されないもの)では男性の従業者数が女性 と比べて多くなっていますが、製造業、宿泊業、飲食サービス業、医療、福祉では女性の 従業者数が男性を上回っています。

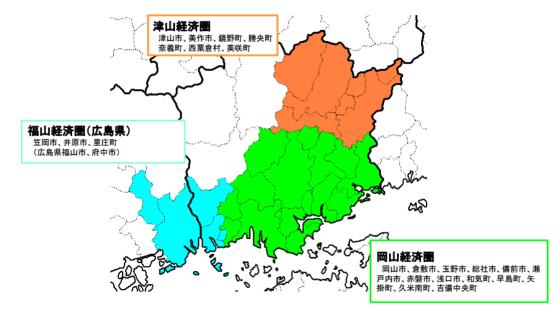


また、常用雇用者数構成比を男女別に見てみると、農業、林業では男女ともに常用雇用者数構成比が 100%となっている一方で、建設業では男性が約 40%、女性が約 9%と低くなっています。また、製造業では女性の常用雇用者数構成比が約 86%と男性よりも大きくなっていますが(主に繊維工業、次に窯業・土石製品)、医療、福祉では約 35%と小さくなっています。



(3) 地域経済分析

経済産業省では、「経済圏」により地域経済を分析することを提唱しています。この考えに基づくと、西粟倉村は「津山経済圏」に属します。

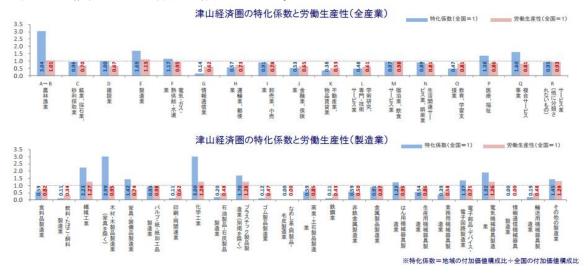


津山経済圏の全産業を横断的に見ると、以下の特徴が挙げられます。

- ・第1次産業では、特化係数・労働生産性指標ともに全国平均以上となっています。
- ・第3次産業では、13業種中3業種において特化係数が全国平均以上となっており、複合サービス事業が最も高くなっています。一方、労働生産性指標については、全国平均以上となる業種は存在しません。

津山経済圏の製造業をさらに詳しく見ると、以下の特徴が挙げられます。

- ・化学工業、木材・木製品製造業 (家具を除く。)、繊維工業等の特化係数が高く、産業集 積が形成されていると考えられます。
- ・一方、労働生産性指標については、5業種において全国平均以上となっていますが、全国 平均の2倍以上となる業種は存在しません。

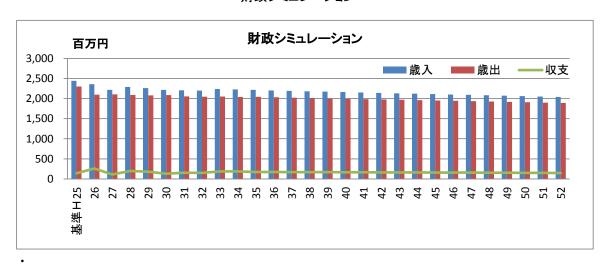


3. 財政

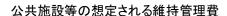
(1) 求められる戦略的投資(財政負担の大きな施設・インフラ等が多数存在)

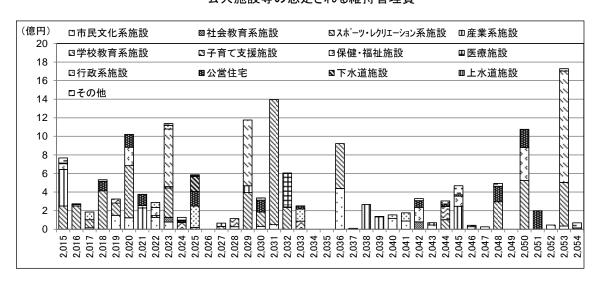
既に更新年を迎えている公共施設等インフラが多数存在し、財政上大きな負担となっています(全ての公共施設等を維持する場合、財政限界点をはるかに超えた負担となります)。 下記は、一定条件のもとに推計した結果ではありますが、今後、政策的視点をもち、戦略的管理を行うことが求められます。

一定条件のもとに推計した結果を以下に示します。追加の維持管理費用や戦略的投資として活用できる(歳入一歳出)の上限が、約1.5億~2億円と想定されます。一方、公共施設等の維持管理費用は、2015年から2054年までの40年間で年平均4億203万円の大規模改修・建替え費用(計160億8,131万)となります。なお、これらの費用に、インフラの更新費用が加わります。



財政シミュレーション





4. 事業所・村民ヒアリング調査結果

(1) 対象

本村のしごとや住まい、子育て等について把握するため、各分野の地元出身者(Uターン者含む。)やI・Jターン者9名にヒアリングを行いました。

【分野】

- ①林業、木材・木製品製造業、家具・装備品製造業など木に関する職業
- ②建設業
- ③製造業
- ④医療、福祉
- ⑤子育て
- ⑥地域づくり

(2)調査項目

現状や今後のむらづくりについて、下記の項目についてヒアリングを行いました。

- ○対象者の西粟倉歴
- ○しごと(事業内容・雇用の現況・今後の採用想定・課題・今後の展望)
- ○子育て(満足している点・困っていること)
- ○住まい(満足している点・困っていること)
- ○その他 (I・Uターン、地域のつながり、買い物、近所のコミュニティ、介護、レクレーション、医療)

(3)調査結果

①Uターンや I ターンのきっかけ

- ○村出身者は村外へ出たことのある人が多い。
- ○近年は村に残りたい若者が増加している。
- ○年代によって村内に残っている人数割合に差がある。
- ○Ⅰターン者は田舎暮らしに憧れる人は少ない。特定企業への就職希望者が多い。
- ・当時は同級生が80名弱いたが、村に残っているのは10名程度である。昔と比べると、 今のほうが村に残りたいと考えている人が多いと感じる(60代)。
- ・複数の仕事を経験後、現在の仕事に落ち着いている。同級生は 20 名強であり、半分が 男性。男性の約 10 名弱が村に残っている (40 代)。
- ・生まれは大阪。親の都合により、西粟倉村で育ち、大学では再び大阪へ転出。その後 就職したが、厳しい労働環境もあり、村へ戻ってきた(40代)。
- ・高校・専門学校は村外で暮らし、2年間の修業を経て U ターンした。同級生 30 名強の うち、村には5名強しか残っていない(地元に残っている人は元気がない)(30代)。
- ・結婚を機に一度村外へ出たが、出産を機に戻ってきた。同級生は 20 名強であり、村に 残っている人も多い(20代)。

- ・会社も公務員も不安定な社会情勢であり、自ら起業するノウハウを身に付ける必要性 を感じた。そうした中、「西粟倉・森の学校」でインターン生を募集しており、採用し てもらったことから関わるようになった。
- ・「西粟倉・森の学校」に勤めるため、移住した。
- ・関西に居住していたが、自然が好きで、将来的には田舎の広い土地でのんびり暮らしたいと考えていた。関西から近く、窓口対応が優しかった西粟倉村へ移住を決めた。
- ・複数の村の中から、「雰囲気が良い」「田舎という感じがしない」理由で西粟倉村を選び、移住した。
- ・田舎暮らしがしたくて西粟倉村へ移住する人は少ない。特定の企業に就職したくてく

②しごと

1) 創業・事業の成長

- ○関東や大企業へ販路開拓しながら、事業の成長をさせている。
- ○現状、土地の制約を受ける拡張は困難である。
- ○ネット販売やニッチ市場の開拓等を活用しながら、村で起業。
 - ・近畿圏の企業の下請けをしている。村周辺で起業するのは難しい。
 - ・岡山県内の企業や産業支援機関とのネットワークを重視しており、活動にも参加して いる。
 - ・木材を活用した事業は軌道に乗っており、顧客は主に関東が多い。
 - ・これまでのB to B だけでなく、村民の困りごとを解決するようなサービス(B to C)も検討していきたい。利益が低くても、地域に大切にされる企業でありたい。
 - ・事業拡大を考えた時期もあったが、西粟倉村には土地がなく、隣接する市で拡張。
 - ・これまで西粟倉村で働いていたことや、全国的に西粟倉村にはブランド力があること、 また村外で起業する理由が見当たらないことが理由。ネット販売と卸売を中心にする ことで、西粟倉村でも起業は可能と考えている。

2) 従業員の確保・育成

- ○選択の余地はなく、欠員のある仕事が就職候補となる。一方、職種によっては、採用 が困難な状況もある。
- ○手に職があると逆指名される可能性が高まる。
- ○創業時は、起業家精神が求められるが、成長段階においては、堅実な人材も必要となる。
- ○村外のネットワーク等を活用し、従業員を育成している例もある。
- ○子育てをしながら働く女性の環境づくりが大切。

- ・仕事がなかったため、たまたま欠員のあった職場に就職した。選んでいる状況ではな かった。
- ・栄養士の資格を有しており、それらを活かした仕事をしている。
- ・経験のある中途採用が基本だが、地元に帰りたい人を新卒採用することができた。
- ・夜勤などもあると、大変なため、若い人や女性がなかなか就職したがらない。
- ・業界に対する人気は低く、若い人が就職しないため、高齢化の傾向にある。
- ・創業時は、起業家精神に溢れた人間が必要だった。しかし、現在は成長段階に移っており、堅実に事業に取り組める人材も必要である。
- ・従業員が一人前に成長するため、販売先へ出向させ、人材育成を行っている。また、 販売先の企業 OB を受け入れ、技術指導を行ってもらうこともある。
- ・就職時に高いモチベーションを持って就職する人は少ない。そのため、働きながら仕事に対するモチベーションを上げる必要がある。
- ・子育てをしている母親が働きやすい環境づくりが大切である。仕事内容を整理することで、そのような女性が勤務できる環境が整いつつある。

③子育て

1) 子育て環境

- ○子育て環境は公的サービスや少人数制による丁寧なサポートで充実している。村外も 含めて考えると選択が広がっている。
- ○一方、細かいところや、外の出た時に、競争環境を生き抜く力づくりが課題である。
- ○少人数であるゆえ、スポーツの選択肢がないのはかわいそうである。
- ○親族が村内にいない移住者を受け入れる環境が乏しい。
 - ・他市町村と比べて、無料健診が多く、細かい健診サービスがあるなど、充実している と感じている。
 - ・西粟倉村の子育て環境は充実しているが、細かいところで不満もある。例えば台風が 来ると幼稚園や小学校は休校になってしまい、働いている母親は急に休めない。
 - ・隣接する智頭町には森のようちえんやサドベリースクール、幼児と通えるスイミング スクールも誕生しており、村外も含めて考えれば選択肢が広がっている。
 - ・若杉会という母子会があり、そこでママ友が生まれている。
 - ・移住者にとって、先輩の移住者に相談することができているが、知らない人ばかりの 集落は頼る人がおらず、本当に困った時にどう対応するかが悩みである。
 - ・近年、LINE などを使ったコミュニケーションを行っている。コミュニケーションが 取れないと仲間に入れてもらえない可能性もあり、大変だ。
 - ・中学生になると試験があり、学力が点数で評価されてしまう。しかし、西栗倉村の場合は少人数のため、先生が丁寧にサポートしてくれる。
 - ・少人数教育は都会では体験できず、非常に良いことだが、村の外に出た時に対応できるか不安である。小さな頃から村の外を見せる必要があると感じている。
 - ・同級生の中には、医者やエンジニアとして活躍している人もいる。学習塾はないが、 少人数教育の強みではないか。

4) 高校進学

- ○選択肢が乏しいため、村外の実家からの通学など、各家庭で工夫している状況である。
 - ・ 西栗倉村から高校へ通学するには選択肢が限られている。 県内他市にある実家から通 学すれば選択肢も広がる。
 - ・高校から外に出ることで、村の外のことも知ってもらいたいと思っている。
 - ・ 高校が近隣にないため、頭を悩ませている。 兵庫県に祖父母宅があるため、そこから 通学させることも検討している。

5) 医療環境

- ○最寄りの病院まで車で1時間とアクセスが悪い。
 - ・村内に診療所しかなく、小児科の先生は月2回しか通院しないため、子どもが病気に なった時は津山(車で1時間)などの病院へ向かう必要がある。

④住まい

- ○夫婦やファミリーは、村営住宅がきっかけで村への移住がスムーズになっている。
- ○空家が少なく、単身者向け住宅などもなく単身者には選択肢が少ない。
- ○移住促進には、企業側の準備も必要である。
 - ・夫婦で移住したため、村営住宅に入ることができた。
 - ・空き家はあるものの、理由があって確保できない。また、単身者向けの住宅がない。
 - ・家がないため、従業員の中にはシェアハウスをしている人もいる。
 - ・採用された事業者に住宅を探してもらい、提供してもらった。住宅に係る相談も事業 者や先輩移住者を通じて行った。

⑤その他

1) 買い物環境

- ○関西や鳥取へのアクセスが良い。野菜等は村内で調達可能である。
 - ・買い物に興味がなく、肉類等もそこまで必要はない。野菜や米は近所の農家からも らったり、実家から仕送りを受けたりしている。
 - ・西粟倉村には因幡街道が通っており、他の地方と比べると立地条件は良い。
 - ・神戸や鳥取へのアクセスが良い。
 - ・買い物や娯楽のため、鳥取へ出かけることが多い。
 - ・買い物は智頭町にあるスーパーや鳥取で済ませている。車移動が基本であり、智頭 急行は利用しない。

2) コミュニティ

- ○わずらわしさ等から地域活動に参加しない人もいる。
- ○集落のお祭りへの参加は移住者や地域間を移動した人間にとって、参加したい気持ちがあってもハードルは高い。
- ○村民とⅠターン者が交流する機会が少ない。
- ・消防団活動にはずっと参加しているが、若い人は参加しないことが多い。また高齢 者は対価を支払うことで参加しないこともある。
- ・集落活動に参加する際、1世帯 1人が参加すれば良いと聞いていたが、シェアハウスの場合は全員の参加を求められるなど、疑問を抱くこともある。
- ・自治会には参加していないが、困っていない。ただし、氏子にも参加していないため、集落のお祭りに参加できず、子どもに辛い思いをさせていると感じることもある。
- ・旧来から因幡街道沿いの村であり、外の人を受け入れる DNA があるのではないか。 I ターン者と適度な距離で接している村民は多い。
- ・村民が I ターン者と交流する機会が少ないため、今後交流会を企画していきたい。
- ・ I ターン者を受け入れることについて、嫌だとは思わないが、いつかはいなくなる のかなという気持ちもある。

3) その他

- ○村役場と村民が一体となった村づくり、役割分担が必要である。
- ・西栗倉村は先進性の高い取組をしているが、一貫性がなく、村民とも共有できてない。「苦しい時は一緒にやり抜く」という気持ちを持って、取組を継続することが大切。
- ・村役場は職員数が少ないが、やることが多く忙しい。そのため、相談しても対応が 遅いことがある。全ての仕事を抱え込まず、一部は村民等へ外注してはどうか。

第3章 西粟倉村の人口の将来推計と分析

1. 西粟倉村の現状と課題

(1)人口動向

〇人口はピーク時から半減、一方、高齢化は10年後にピーク(約4割)

平成27年6月1日現在の人口は1,518人となっています。大正8年の3,255人をピークに人口減少が進んでおり、岡山県と比較しても人口減少の速度が速くなっています。

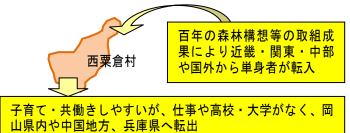
少子化・高齢化が進み、平成 37 年には村全体の 40%が 65 歳以上となりますが、その後は 65 歳以上の割合は減少し、15~64 歳の割合が増加予定です。

〇百年の森林構想等の成果により、転入超過 (遠方から単身者が転入)

〇一方、主な転出先は岡山県内等の近隣地域

近年は転入超過であり、近畿・関東・中部地方、また国外からの独身者の転入が多くなっています。

一方、岡山県内や中国地方、兵庫県への転出が多く、特に高校・大学を契機とした転出が目立ちます。



(2) しごと

〇卸・小売や建設・製造業が雇用創出

○新たな産業が創出されつつも、まだ職の選択肢が少なく、村外へ流出

事業所数・従業者数は減少傾向にあり、村外への通勤も多くなっています。村内は、男性は林業、建設業、製造業(木材・木製品等)、卸売業・小売業、女性は製造業(繊維工業等)、卸売業・小売業、医療、福祉に従事しています。

(3) 住まい

- ○単独・核家族が増加し過去2番目の世帯数。今後、住宅不足の顕在化が懸念
- ○単身者向けの住まいが不足

単独世帯及び核家族世帯が増加し、3世代同居世帯が減少しており、平成26年には過去2番目に大きい572世帯となっています。住宅供給不足が懸念されます。

U・Iターンにより村へ転入する単身世帯がいるものの、村内の改修可能な空き家は少なく、村営住宅も夫婦やファミリー向けのため、単身世帯向け住宅が不足しています。

(4) 子育て

- ○婚姻率は高いが合計特殊出生率は低い
- 〇子育て環境は充実していると高い評価
- OIターン者への子育環境充実や人材育成という視点は改善の余地あり

岡山県内自治体と比較すると、婚姻率は高いものの、合計特殊出生率はやや低くなっています。

託児所や幼稚園及び預かり保育、子育てサークルなど、育児支援が充実しており、少人 数教育も行われています。子育てしながら働きやすく、共働き家庭も多くなっています。

一方で託児所や幼稚園、小学校、中学校などがそれぞれ 1 箇所ずつしかなく、選択肢がほとんどないため、保護者・保育者の細かいニーズに対応できていない状況も見られます。また、近年は子どもの数が増えているものの、子どもの数が 10 人に満たない学年もあり、同学年でバレーボール(6 人×2 チーム)や野球(9 人×2 チーム)、サッカー(11 人×2 チーム)といったスポーツができない状況です。

小中学校までは少人数教育となっていますが、近隣に高校は少なく、智頭急行で通学できる兵庫県の高校への越境入学はできない事情もあり、高校や大学進学時に村を離れ、都市の競争環境に身を置く子どもも少なくありません。その結果、厳しい競争社会に慣れることができず、高校や大学卒業後に村へ戻ってくる人も見られます。

2. 目標人口

(1) 基本的な考え方

2060年に小学校1学年当たりの人数を18人以上維持できる人口を目指します

本村の人口は減少傾向にあり、現在は約1,500人となっています。人口減少とあわせて、少子化・高齢化が進み、1学年当たりの子どもの人数が1桁に落ち込むことを悲しむ声も聞こえています。子どもの数が少ないと、スポーツ等の選択肢が少なくなり、不自由さが生じる声も聞かれます。

また、本村の事業所数や従業者数は減少傾向にあり、村外への通勤や、近隣地域への転出も見られます。林業や建設業、製造業、卸売業・小売業などが雇用の中心となっており、地域のしごとを維持・拡大していかなければ、移住者の増加にはつながりません。また、移住者や世帯分離によって単身世帯や核家族世帯が増加しているため、遊休地や改修可能な空き家の少ない本村では、住宅供給不足も問題となることが想定されます。

近年は「百年の森林構想」を中心とした移住政策の成果により、近畿や関東、国外などの遠方から転入する単身者や家族が増え、子どもの人数がやや増加しています。本村は人口増加に向けて厳しい環境にあるものの、これまでの移住政策を継続・拡充させることで、少しずつ人口を増加させ、多くの子どもの笑顔が見られる村にしていくことが求められます。

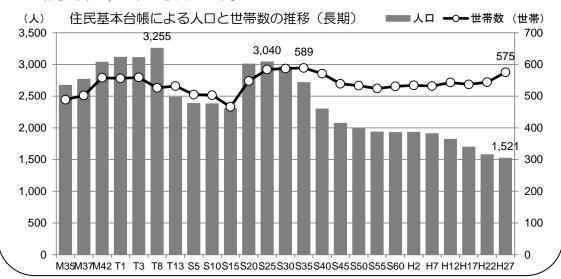
以上から、かつての西粟倉村のように、子どもの元気な声が村中で聞こえる将来を目指し、2060年に小学校1学年当たりの人数が18人以上となる人口を目指します。

人口の上限値を約3,200人に設定します

本村の人口及び世帯数の推移を長期的に見ると、人口は大正 8 年に 3,255 人とピークを迎えています。その後、一度落ち込むものの再び増加し、昭和 25 年に 3,040 人と二度目のピークを迎えて、その後は減少傾向にあります。

また、世帯数については概ね 500 世帯から 600 世帯の間を維持しています。昭和 35 年に 589 世帯とピークを迎えていますが、平成 27 年もピーク時に近い世帯数となっています。

将来的に持続可能な村づくりを行うためには、歴史的視点や環境容量の視点から、人口の上限値を約3.200人と設定します。



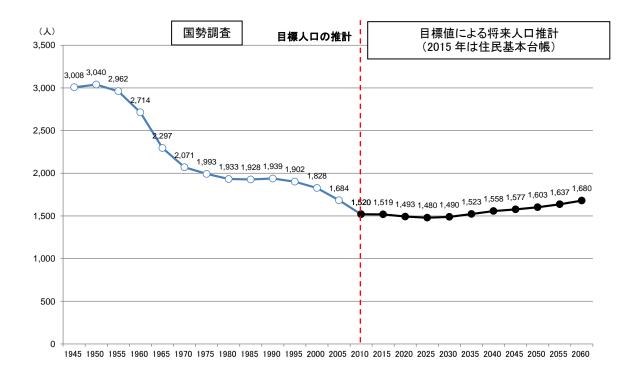
(2)目標人口

基本的な考え方に基づき、5年後及び2060年の総人口の目標値をそれぞれ1,493人、1,680人と設定します。また、5年後及び2060年の一学年の平均人数の目標値をそれぞれ14人、18人と設定し、「同じ学年で野球を行うことができる」ことを目指します。

項目	目標値		
	2020年	2060年	
総人口	1,493 人	1,680 人	
一学年の平均人数	14 人	18 人	

また上記の目標値を達成するため、出生数、転入数、転出数について、それぞれ下記の目標値を設定します。

項目	目標値		
転出数 (大学進学)	高校卒業時(18歳)に同学年の9割が転出		
	大学卒業時(22 歳)に 4 割が U ターン		
	:.同学年の5割が転出		
転出数 (80 歳以上の高齢者)	8人/年		
合計特殊出生率	国の基準程度まで上昇		
	(2030 年に 1.80、2040 年以降 2.07 で一定)		
転入数	20 人/年		
	(独身者4人、夫婦又はカップル2組、家族4組)		



(参考) 将来人口の推計と分析

①推計の方法

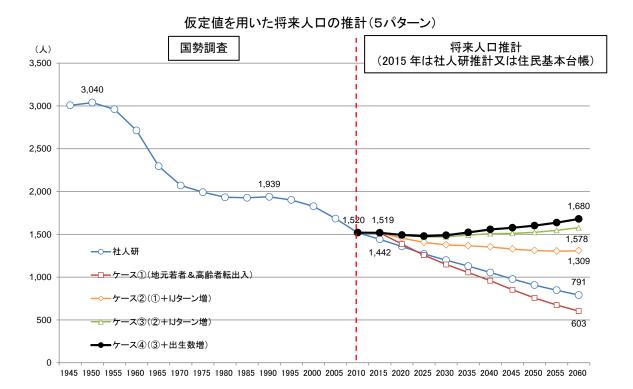
将来人口を推計するためには、自然動態(出生数及び死亡数)、社会動態(転入数及び転出数)を設定することが必要です。各パラメータについて、以下の5つのパターンを設定して、将来人口を推計しました。

推計の考え方(5パターン)

推計	自然動態		社会動態		現状
パターン	出生数	死亡数	転入数	転出数	50647
社人研		口動向を勘案し 生率及び生残率	2020 年までに し、その後はほ	純移動率が縮小 ほぼ一定	
				2020 年以降は 年間 2~3 人が 転出	
ケース① (地元若者& 高齢者転出入)			2020 年以降 は年間 1~2 人が転入		年間約 50 人 が転出
ケース② (①+ IJ ターン者増)	合計特殊出 生率 1.58~ 1.64 の範囲 で横ばい	年間 16~25	年間 14 人転 入 ・独身者 4 人 ・夫婦又レ2 リップル2 組 ・家族(子 1	高校卒業時(18 歳)に同学年の 9割が転出し、	年間約 50 人 が転入 (うち 移住者は 10 ~20 人)
ケース③ (②+ IJ ターン者増)		人の死亡者数 で横ばい	人)2組	大学卒業時(22 歳)に 4割が U ターン(つまり 同学年の 5 割 が外に出たま ま) 80 歳以上が年 間約 8 人転出	
ケース④ (③+ 出生数増)	合計特殊出 生率が国の 基準程度30 年1.80、2040 年以降 2.07 で一定)		年間 20 人転 入 ・独身者 4 人 ・夫ップル 2 ・家族(子 1 人)4 組		

②推計の結果

社人研推計パターン及びケース①・②では人口減少が進みますが、ケース③・④では人口が増加し、ケース④の場合、2060年(平成72年)の総人口は1,680人と推計されます。



5年後・2060年の将来人口等の推計値(5パターン)

		総人口	年齢3	3区分別人口	1(人)	小学校 1学年	世帯数
		(人)	年少人口	生産年齢人口	老年人口	人数(人)	(世帯)
現状(H27年)		1,519	184	813	522	12	577
	社人研	1,359	158	691	510	11	516
5年後	ケース①	1,386	180	716	490	13	526
(H32年)	ケース②	1,458	194	773	490	14	554
(П324-)	ケース③	1,490	207	793	490	15	566
	ケース④	1,493	210	793	490	15	567
	社人研	791	85	381	326	6	300
2060年	ケース①	603	56	253	294	4	229
2060年 (H72年)	ケース②	1,309	168	737	404	12	497
(11/24)	ケース③	1,578	210	904	465	15	599
	ケース④	1,680	275	940	465	19	638

1) 社人研推計パターン (平成27年人口は推計値)

社人研の推計に基づくと、平成72年(2060年)に総人口は791人と平成22年の約半分まで減少し、65歳以上人口比率は41.2%と4割以上を占めます。また、1学年当たりの平均人数は約6人です。

将来人口等の推計(社人研推計パターン)

		平成22年	平成27年	平成32年	平成37年	平成42年	平成47年	平成52年	平成57年	平成62年	平成67年	平成72年
		(2010年)	(2015年)	(2020年)	(2025年)	(2030年)	(2035年)	(2040年)	(2045年)	(2050年)	(2055年)	(2060年)
社人研	総人口(人)	1,520	1,442	1,359	1,272	1,198	1,129	1,055	978	908	848	791
	15~49歳女性(人)	247	227	209	204	188	164	154	146	139	132	117
	合計特殊出生率	1.48	1.65	1.61	1.58	1.58	1.58	1.59	1.59	1.59	1.59	1.59
	0~14歳人口比率	10.7%	11.4%	11.7%	11.2%	11.0%	10.9%	10.9%	10.8%	10.9%	10.8%	10.7%
	0~14歳平均学年人数(人)	11	11	11	10	9	8	8	7	7	6	6
	15~64歳人口比率	57.4%	53.8%	50.8%	49.1%	49.7%	49.9%	50.5%	50.2%	48.3%	47.4%	48.1%
	65歳以上人口比率	31.8%	34.8%	37.5%	39.6%	39.3%	39.1%	38.6%	39.0%	40.8%	41.8%	41.2%
	75歳以上人口比率	22.0%	21.7%	19.7%	21.9%	24.7%	27.3%	26.3%	25.1%	24.2%	25.1%	27.5%

2)ケース①(地元若者&高齢者転出入/平成27年人口は住民基本台帳)

社人研の推計では、平成32年までに転出・転入数の比率(純移動率)が縮小し、その後は横ばい傾向が続くという仮定値のもと算出を行っています。

しかし、西粟倉村には村内に高校・大学が存在しません。近隣市町村の高校も統廃合が進んでおり(大原高校等)、智頭急行を利用した越県通学も難しい状況です(佐用高校等)。 そのため、村内から通学可能な高校が限られており、大学へは村内から通学することは困難と考えられます。

また、村内には社会福祉協議会がデイサービス等に取り組み、診療所も存在するものの、 総合病院やグループホームは存在していません。

したがって、地元若者及び高齢者について、今後も転出が続くことが想定されることから、下記の推計を行います。

- ・地元若者: 高校卒業時(18歳)に同学年の9割が転出し、大学卒業時(22歳)に4割がU ターンする(残り5割は転出したまま)。
- ・高齢者 :80歳以上の高齢者が年間約8人転出する。

ケース①の推計に基づくと、平成 72 年(2060年)に総人口 603 人と社人研推計パターンより約 200 人減少し、1 学年当たりの平均人数も約 4 人まで減少します。一方、75 歳以上人口比率は 23.0%であり、社人研推計パターン(27.5%)と比べて減少します。

ケース①(地元若者&高齢者転出入)

		平成22年	平成27年	平成32年	平成37年	平成42年	平成47年	平成52年	平成57年	平成62年	平成67年	平成72年
		(2010年)	(2015年)	(2020年)	(2025年)	(2030年)	(2035年)	(2040年)	(2045年)	(2050年)	(2055年)	(2060年)
ケース	総人口(人)	1,520	1,519	1,386	1,257	1,148	1,055	958	852	756	674	603
1	15~49歳女性(人)	247	243	231	217	195	164	146	104	93	87	74
	合計特殊出生率	1.48	1.65	1.61	1.58	1.58	1.58	1.59	1.59	1.59	1.59	1.59
	0~14歳人口比率	10.7%	12.1%	13.0%	12.9%	12.3%	12.1%	11.9%	11.1%	10.3%	9.3%	9.2%
	0~14歳平均学年人数(人)	11	12	12	11	9	9	8	6	5	4	4
	15~64歳人口比率	57.4%	53.5%	51.6%	50.8%	51.9%	52.8%	53.3%	53.3%	51.3%	49.8%	42.0%
	65歳以上人口比率	31.8%	34.4%	35.4%	36.3%	35.8%	35.1%	34.7%	35.6%	38.4%	40.8%	48.7%
	75歳以上人口比率	22.0%	22.3%	17.4%	17.5%	20.3%	22.8%	21.5%	19.1%	18.1%	19.3%	23.0%

3) ケース②(①+IJターン者増/平成27年人口は住民基本台帳)

近年、西栗倉村への移住者が増加しており、年間 $10\sim20$ 名が I ターン者として移住しています。「西栗倉・森の学校」等による取組の成果と考えられ、今後も引き続き移住者を取り入れる必要があります。

そこで、今後も年間 14 人が I ターンすると仮定する。移住者の内訳は下記とします(IJ ターン者には地元出身で大学卒業時に U ターンしなかった人も含みます。)。

- · 独身者 4 人 (合計 4 人)
- ・夫婦又はカップル 2 組(合計 4 人)
- ·家族(子 1 人)2 組(合計 6 人)

ケース②の推計に基づくと、平成 72 年 (2060 年) に総人口 1,309 人となり、現状より減少するものの、社人研推計パターンやケース①と比べて、人口減少を抑えることができます。1 学年当たりの平均人数も約 11 人であり、現状維持となっています。

			平成22年	平成27年	平成32年	平成37年	平成42年	平成47年	平成52年	平成57年	平成62年	平成67年	平成72年
			(2010年)	(2015年)	(2020年)	(2025年)	(2030年)	(2035年)	(2040年)	(2045年)	(2050年)	(2055年)	(2060年)
Г	ケース	総人口(人)	1,520	1,519	1,458	1,406	1,378	1,367	1,353	1,328	1,311	1,304	1,309
	2	15~49歳女性(人)	247	243	260	275	279	271	268	234	232	234	230
		合計特殊出生率	1.48	1.65	1.61	1.58	1.58	1.58	1.59	1.59	1.59	1.59	1.59
L		0~14歳人口比率	10.7%	12.1%	13.3%	14.0%	14.1%	14.6%	14.9%	14.5%	13.9%	13.1%	12.9%
		0~14歳平均学年人数(人)	11	12	13	13	13	13	13	13	12	11	11
		15~64歳人口比率	57.4%	53.5%	53.1%	53.6%	56.1%	58.3%	60.5%	62.0%	62.0%	61.1%	56.3%
L		65歲以上人口比率	31.8%	34.4%	33.6%	32.4%	29.8%	27.1%	24.6%	23.6%	24.2%	25.7%	30.8%
-1		75歩い LIOレ女	0.0 00/	00.00/	10.01/	1 5 70/	16.00/	17.6%	1 5 00/	10.00/	10.49/	10.6%	10.40/

ケース②(①+IJ ターン者増)

4) ケース③(②+IJターン者増/平成27年人口は住民基本台帳)

ケース②で設定した移住者数をさらに増加することを検討します。具体的には、西栗倉村に移住する家族数を増やすこととし、今後、年間 20 人が I ターンとして転入すると仮定します。

- · 独身者 4 人 (合計 4 人)
- ・夫婦又はカップル2組(合計4人)
- ·家族(子 1 人)4 組 (合計 12 人)

ケース③の推計に基づくと、平成 37 年までは緩やかに減少するものの、その後人口は増加し、平成 72 年(2060 年)に総人口 1,578 人となります。また、1 学年当たりの平均人数も約 14 人であり、現状より増加します。

I			平成22年	平成27年	平成32年	平成37年	平成42年	平成47年	平成52年	平成57年	平成62年	平成67年	平成72年
			(2010年)	(2015年)	(2020年)	(2025年)	(2030年)	(2035年)	(2040年)	(2045年)	(2050年)	(2055年)	(2060年)
I	ケース	総人口(人)	1,520	1,519	1,490	1,470	1,471	1,492	1,508	1,512	1,524	1,547	1,578
ı	3	15~49歳女性(人)	247	243	270	298	309	304	305	275	276	284	282
ı		合計特殊出生率	1.48	1.65	1.61	1.58	1.58	1.58	1.59	1.59	1.59	1.59	1.59
ľ		0~14歳人口比率	10.7%	12.1%	13.9%	14.6%	14.8%	15.3%	15.5%	15.0%	14.3%	13.6%	13.3%
ľ		0~14歳平均学年人数(人)	11	12	14	14	15	15	16	15	15	14	14
ľ		15~64歳人口比率	57.4%	53.5%	53.2%	54.4%	57.2%	59.8%	62.5%	63.7%	63.0%	61.8%	57.3%
ľ		65歳以上人口比率	31.8%	34.4%	32.9%	31.0%	27.9%	24.8%	22.1%	21.3%	22.6%	24.7%	29.5%
ľ		75歳以上人口比率	22.0%	22.3%	16.2%	15.0%	15.9%	16.1%	13.7%	10.8%	9.0%	9.5%	11.8%

ケース③(②+IJ ターン者増)

5) ケース④(③+出生数増)

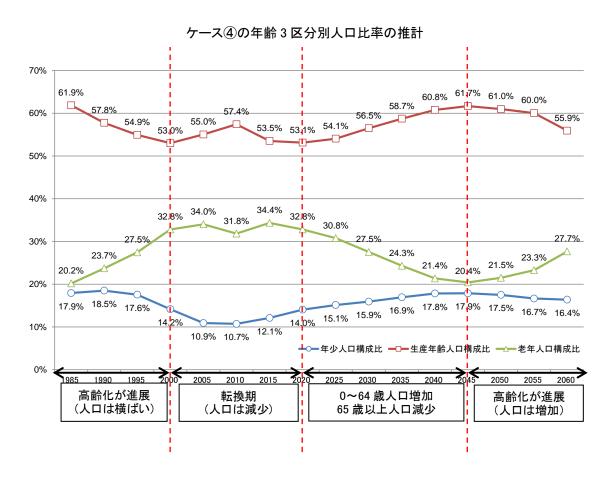
自然動態において、合計特殊出生率が国の「長期ビジョン」で示された基準程度まで上昇すると仮定します。具体的には2030年に1.80、2040年以降は2.07で一定とします。

ケース④の推計に基づくと、平成37年までは緩やかに減少するものの、その後人口は増加し、平成72年(2060年)に総人口1,680人となります。また、1学年当たりの平均人数も約18人であり、現状より増加します。

		平成22年	平成27年	平成32年	平成37年	平成42年	平成47年	平成52年	平成57年	平成62年	平成67年	平成72年
		(2010年)	(2015年)	(2020年)	(2025年)	(2030年)	(2035年)	(2040年)	(2045年)	(2050年)	(2055年)	(2060年)
ケース	総人口(人)	1,520	1,519	1,493	1,480	1,490	1,523	1,558	1,577	1,603	1,637	1,680
4	15~49歳女性(人)	247	243	270	298	309	305	308	280	285	297	300
	合計特殊出生率	1.48	1.65	1.70	1.75	1.80	1.90	2.07	2.07	2.07	2.07	2.07
	0~14歳人口比率	10.7%	12.1%	14.0%	15.1%	15.9%	16.9%	17.8%	17.9%	17.5%	16.7%	16.4%
	0~14歳平均学年人数(人)	11	12	14	15	16	17	19	19	19	18	18
	15~64歳人口比率	57.4%	53.5%	53.1%	54.1%	56.5%	58.7%	60.8%	61.7%	61.0%	60.0%	55.9%
	65歳以上人口比率	31.8%	34.4%	32.8%	30.8%	27.5%	24.3%	21.4%	20.4%	21.5%	23.3%	27.7%
	75歳以上人口比率	22.0%	22.3%	16.2%	14.9%	15.7%	15.8%	13.2%	10.3%	8.5%	8.9%	11.1%

ケース④(③+出生数増)

ケース④について、年齢3区分別人口比率の推計を見ると、2000年までは老年人口が増加していたことから人口が横ばいだったものの、その後はどの年齢区分も横ばいとなり、2015年まで人口減少しています。しかし、近年の移住政策等を今後も継続・強化していくことで、2045年にかけて、年少人口及び生産年齢人口比率の増加が見込まれ、あわせて2035年より人口も増加に転じると考えられます。



35

<ケース④の年齢(5歳)階級別人口の推計>

男女計	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総数	1,520	1,519	1,493	1,480	1,490	1,523	1,558	1,577	1,603	1,637	1,680
0~4歳	58	63	61	70	77	82	90	81	80	82	83
5~9歳	52	66	73	71	80	86	91	100	91	90	92
10~14歳	53	55	76	83	81	90	96	101	110	100	100
15~19歳	57	50	35	49	53	52	58	62	65	70	64
20~24歳	64	63	26	19	26	28	27	31	33	34	37
25~29歳	84	70	112	59	47	58	61	60	65	68	70
30~34歳	77	86	90	132	79	67	78	81	80	85	88
35~39歳	67	80	106	110	152	99	87	97	101	100	104
40~44歳	70	71	100	125	129	171	118	107	117	121	120
45~49歳	74	64	71	100	125	129	172	119	107	118	121
50~54歳	119	75	63	70	98	123	127	169	117	105	116
55~59歳	129	118	75	63	71	98	123	127	169	116	105
60~64歳	132	136	115	74	62	70	96	121	124	166	114
65~69歳	64	123	131	110	71	60	68	93	117	120	162
70~74歳	85	61	118	125	106	70	59	66	91	114	117
75~79歳	149	77	56	108	114	97	65	55	61	84	106
80~84歳	101	129	51	34	78	85	70	42	34	39	59
85~89歳	57	85	83	24	11	46	52	39	19	12	16
90歳以上	28	47	51	55	29	13	20	26	23	11	5
(再掲)0~14歳	163	184	210	224	237	258	278	282	281	273	275
(再掲)15~64歳	873	813	793	800	842	895	947	973	977	983	940
(再掲)65歳以上	484	522	490	456	410	370	333	322	345	381	465
(再掲)75歳以上	335	338	242	220	233	241	206	163	137	146	186

<ケース④の社会増減(コーホート)>

男女計	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総数	2010	50	49	31	19		20	14	14	11	15
出生→0~4歳											
0~4歳→5~9歳		8	10	10	10	10	10	10	10	10	10
5~9歳→10~14歳		3	10	10	10	10	10	10	10	10	10
10~4歳→15~19歳		-3	-20	-27	-30	-29	-32	-35	-37	-40	-36
15~19歳→20~24歳		6	-23	-16	-23	-25	-24	-27	-29	-30	-33
20~24歳→25~29歳		6	50	32	29	32	33	33	34	35	36
25~29歳→30~34歳		2	20	20	20	20	20	20	20	20	20
30~34歳→35~39歳		3	20	20	20	20	20	20	20	20	20
35~39歳→40~44歳		4	20	20	20	20	20	20	20	20	20
40~44歳→45~49歳		-6	1	1	1	1	2	1	1	1	1
45~49歳→50~54歳		2	0	0	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1
50~54歳→55~59歳		1	1	1	1	1	1	1	2	1	1
55~59歳→60~64歳		10	0	0	0	0	0	0	0	1	0
60~64歳→65~69歳		-4	0	0	0	0	0	0	0	0	1
65~69歳→70~74歳		0	2	1	1	1	1	2	2	3	3
70~74歳→75~79歳		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
75~79歳→80~84歳		1	-15	-15	-15	-15	-15	-15	-15	-15	-15
80~84歳→85~89歳		11	-15	-15	-15	-15	-15	-15	-15	-15	-15
85歳以上→90歳以上		3	-10	-10	-10	-8	-10	-10	-10	-10	-7